

2024/09/03

ICMRBS 2024 参加報告書

横浜市立大学大学院生命医科学研究科 修士2年 鈴木陽菜梨

この度、日本核磁気共鳴学会の2024年度第1回若手研究者渡航奨励金のご支援を賜り、2024年8月18日～23日に韓国のソウルにて開催されたICMRBS (International Conference on Magnetic Resonance in Biological Systems) 2024に参加いたしました。本奨励金により国際学会に参加させていただき、日本核磁気共鳴学会会長 木川隆則先生、故京極好正先生、故阿久津政明先生、ご家族の皆様、並びに関係者の方々に心より御礼申し上げます。

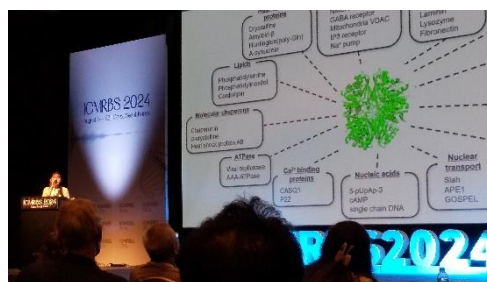
開催会場のCOEXは2000年にASEM (アジア欧州会合) が開催されたことで有名になった会場です。さらに併設されているショッピングモールには有名な「ピョルマダン図書館」や韓国最大規模の水族館があることから、国内外から多くの観光客が訪れており、国際都市であることが感じられました。



COEX Convention Center ロビー

本学会はICMRBSが60周年(30回目)を迎える節目の会であり、29か国から600人を超える参加者が集まり、生体分子を中心にAI-NMRやNew methodologiesまで幅広い演題での発表がありました。私は「Dynamics analysis of glyceraldehyde-3-phosphate dehydrogenase (GAPDH)」という題目でポスター発表とLightning talkを行いました。解糖系酵素として知られてきたGAPDHが解糖系以外の機能にも関与することから、GAPDHの相互作用を制御する仕組みを解明すべく研究を進めています。この度は、ホモ四量体GAPDHが低温変性条件下でATPによって二量体を維持することやGAPDHとmRNAの相互作用モデルについて報告しました。ポスター発表ではGAPDHを他の系(光合成)で研究している方やGAPDHが相互作用する相手側の分子を研究されている方など様々な方と議論をすることができ、測定条件や方法、研

究方針について質問やコメントをいただき非常に学びの多い時間になりました。また、Lightning talk は1分間という短い時間での発表でしたが、招待講演の直後であったため、大勢の人が集まっている中での発表となり、非常に貴重な経験となりました。講演の中ではソウル大学の Park



Lightning talk

Sunghyounk 先生の「Live Metabolomics with NMR: Real-Time Metabolic Monitoring」というご発表が個人的に興味深かったです。 ^{13}C ラベルした大腸菌を食べた線虫を直接サンプル管に入れ、3時間 NMR で代謝物を測定し、ロックアウトの種類によって代謝経路に及ぼす影響を調べた研究でした。3時間の測定の中でグルコースの割合などが大きく変化しており、生きた状態で代謝物の変化を追跡することの重要性が感じられた内容でした。本学会を通して論文や書籍で拝見してきた著名な先生方のお話を生で聞くことができ、今まで学んできたことをより一層身近に感じられるようになりました。

また、プログラム内のイベントを通して様々な国の方と交流したことも良い思い出となりました。Student night では韓国や中国、ベトナムの方たちとともに実験の話や MBTI の話題で盛り上がり、Excursion ではアメリカやスイスの方と五味子茶（韓国の伝統的なお茶）を飲みながらそれぞれの地域の言語について語ったりしました。私は以前より韓国語を学んでいたため、現地では英語だけでなく韓国語で会話したり、ポスター発表も韓国人の方には韓国語で発表したりなど、言語を活かすことができ、より一層充実したものとなりました。



Student night (右手前から2人目)



五味子茶（オミジャ茶）

本学会の参加にあたり、多大なるご指導・ご支援いただきました池上貴久先生に深く感謝申し上げます。最後に、貴重な機会を与えてくださいました日本核磁気共鳴学会に重ねて御礼申し上げます。本学会で得た経験を活かしていけるよう今後も精進してまいります。